

2025.4/15<sup>TUE</sup> - 5/6<sup>TUE</sup>

# 米谷清和の “ニューヨーク・メモ”展 Sketch of New York



米谷清和の“ニューヨーク・メモ”展

2025年4月15日(火)ー5月6日(火・休)

開館時間：午前10時30分から午後5時30分 休館日：月曜日(5月5日は開館)

観覧料：無料 主催：公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団

会場：三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー TEL：0422-29-9868 (三鷹市公会堂)

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-42-3 1階 JR三鷹駅南口より徒歩5分(約350m)

<https://mitaka-sportsandculture.or.jp/shg/>

三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー  
Mitaka City Hamae Sakurai Memorial Gallery



〈イースト・リバーサイド〉



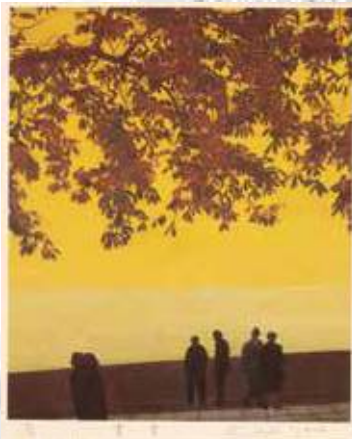
〈ユニオン・スクエア・ウェストの夕〉



〈ビレッジ・ブルーノート〉



〈One Way-II〉



〈黄昏〉



〈34St.〉

## 米谷清和の“ニューヨーク・メモ”展

1947年福井市に生まれた米谷清和は、三鷹にアトリエを構える日本画家横山操（1920-1973）に師事すべく多摩美術大学に進み、当時から77歳になる現在まで調布、そして三鷹に居住しています。

それまでの日本画では考えられないようなモチーフに、激しい筆致で、ときに繊細に対峙した師横山の下で、米谷は独自に現代の〈今・ここ〉を捉えることに専念しました。それは渋谷や新宿の街であり、木漏れ日の田舎道であり、表情の失せたサラリーマンや早朝のラジオ体操の張りつめた空気です。心のひだを見つめるように雨の渋谷駅を描き、照り返す夏の陽射しを老婆の日傘に重ねて描きました。米谷の〈今・ここ〉を直指する態度は、過去から、そして未来から時が流れ込む滝壺としての現在を、ことばなく、すなわち概念以前の世界として描き出すものにほかなりません。

今回展覧される作品は30年前に訪れたニューヨークで描かれました。米谷の大画面を知る者には少し意外かもしれませんが、いずれにも通底するのは、分節不能の今、ここ、そしてわたし、という主客未分のありようです。米谷の画には、大きさや画材や技法にかかわらず、具象／抽象、わたし／あなたということのずっと手前の純粋な経験が、ただそこに投げ出されたようにあると言ってよいでしょう。

※なお、制作年はすべて1995年です。



東京都三鷹市下連雀3-42-3 JR三鷹駅南口より徒歩5分

【お問合せ】Tel: 0422-29-9868  
(三鷹市公会堂)

三鷹駅から会場までのアクセス：  
右記QRからご確認ください (YouTube)



三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリー  
Mitaka City Hamae Sakurai Memorial Gallery